

架線集材の技術を受け継ぐ

急峻な地形が多い豊根村では、高性能林業機械が活躍できる山林は限られており、高齢級の森林が急増しつつある今、架線技術の継承は緊急の課題です。当組合では、今年7月に現場職員の宮野慎一さんが「林業架線作業主任者」の免許を取得しました。現在、同僚の前田秀行さんと共に地元のベテランによる指導のもと大径木を搬出しています。



ご指導よろしくお願ひします

今年4月から、事務職員に新しいメンバーが加わりました。

4月より入職した竹内章二(たけうち・しょうじ)です。生まれ育った豊根村で働くことができ、うれしく思います。父も長年森林組合で勤務したので、時折話を聞きましたが、昔と今では事業の仕組み等が大きく変わり、年々厳しさを増しているようです。そんな中でも組合長はじめ理事の方々や職員の皆さんの期待に沿えるよう、また組合員の方々のお役に立てるように頑張りたいと思います。



現場で活躍する若手職員が「林業あいち」で紹介されました

林業の業界紙「林業あいち」(愛知県森林協会・月1回発行)9月号で、現場職員の神谷敦さん(19歳)が「～地域の担い手～活躍する県立田口高等学校林業科卒業生」という取材記事の中で紹介されました。県立田口高等学校は、県内で唯一の林業科を有する高校です。昨年度に新卒で就業し、1年余りが経過した機会に、就業後の感想を語った内容で、右にその記事を転載します。



- 志望の動機は?.....元々、身体を動かすのが好きで、学校で学んだ事を活かせる仕事だと思いました。月給制であることにも魅力を感じました。
- 現在の仕事は?.....伐採や造材などです。
- 1年を経過しての感想は?.....先輩方が分かり易く指導をしてくれるので仕事が楽しいです。林業に対するイメージにギャップは感じませんでしたが、身体は疲れます。ただ単に作業をするのではなく、段取りなどの工夫や技術が必要だと感じました。
- 将来の目標は?.....確実な技術を身に付けたいです。高性能林業機械などの資格を取得して、仕事に活かしたいです。冬場は通勤が大変(豊田市稲武地区在住)なので、豊根村内に住まいががあればと思っています。
- 村松久組合長から神谷さんへ.....明るい性格で、現場の先輩とも仲良くやっています。林業に向いていると思います。早く1人前になってもらいたいです。

※「林業あいち」9月号より転載
(取材:愛知県 新城設楽農林水産事務所 林業振興課 林業普及指導員 高木謙氏)

とよね木サイクルセンター

道の駅には、豊根産材がふんだんに使われています

今年4月18日にリニューアルオープンした道の駅「グリーンポート宮嶋」では、当センターで製材・加工した豊根産材を使用しています。モダンな設計でありながら、木材を効果的に使ったやわらかく暖か味のある空間になっています。



羽目板から物産品販売用の什器まで

今年も薪が無料です!

杉や桧の小丸太や板の端材です。当センターにて、職員に一声おかけください。



※午前8時～午後5時/平日のみ
※対象者は組合員および豊根村民とさせていただきます。
※トラックへの積み込みは、各自でお願いします。

役員研修を実施

11月12日、役員研修で第31回三河材まつり(ホルツ三河)、設楽町役場庁舎等を視察しました。



出品した杉が「中部森林管理局長賞」を受賞した熊谷哲さんとともに

間伐材をお売りください

当センターでの買取価格は下記のとおりです。

●規格・買取価格(杉・桧4m/m³) 平成27年11月

等級(主な用途)	金額	仕分基準
1本買い(杭・横木)	180～280円	7～13cm
C材(チップ用材)	3,000円	割れ、曲がり、虫食い等
BC材(土木・合板用材)	4,800円	黒芯、曲がり
B材(土木・集成材用)	6,000円	直材(14～20cm) 60年生以下、軽微な曲り
AB材(建築用材)	8,000円	70年生以下、直材(22cm～)
A材(内装材)	11,000円	70年生以上、元玉・直材
注文材	市場価格以上	—

※金額は、センター持ち込みm³当りの税抜金額です。※腐りはお断りさせていただきます。※桧のA材・AB材の金額は概ね上記の2割増し程度です。

森林組合だより

平成27年11月

Vol.7

豊根森林組合



循環する 森づくりを

成熟期を迎えた山林を皆伐して
搬出するとともに、伐採地に
花粉の少ない杉品種や広葉樹の苗を
植えることで、より良いかたちで
森林の世代交代をはかる。
いま持続可能な林業経営に向けた
取り組みが始まっています。



写真はいずれも村有林の皆伐・更新一貫施業(下黒川字若崩入)

山や木のことなら、まずは森林組合にご相談ください。

Tel.0536-85-1014 Fax.0536-85-1134 (午前8時～午後5時/平日のみ)

発行:豊根森林組合 〒449-0403愛知県北設楽郡豊根村下黒川字葦平3番地 TEL.0536-85-1014

組合長あいさつ

代表理事組合長 村松 久



早いもので組合長就任から3年経ちました。先の総会で理事8名監事2名が承認され、私も2期目の組合長を勤めさせていただくことになりました。役職員一致協力し地域林業に貢献できるよう頑張っていく所存です。

本年4月1日より本組合の名称が「豊根森林組合」となりました。林業を取巻く状況は相変わらず厳しい状況ですが、山林は組合員にとっても地域にとっても大事な自然資産です。これを守り育てていくため、今まで以上に皆様のお役に立てるよう決意を新たにしています。

また、これを機に「豊根村森林組合」「富山村森林組合」の名前で発行していました出資証券を幾度かの増資分を含めて「豊根森林組合出資証券」として統合再発行致しました(保管は組合事務所)。

材価は相変わらず低迷したままですが、林業を取巻く環境は、この1・2年で大きく変わりました。

1点目は、ご承知のように木質バイオマス発電が国のかけ声と共に各所で稼働し始めました。建築用材以外のB、C材を燃料として利用する計画で買取り価格が6,000円～6,500円とチップ材よりは高値で引取ってくれますが、その値では豊根村からでは赤字になってしまいます。今後の動向が気になるところです。

2点目は、戦後植栽林が60年を超え、伐期となってまいりました。国の方針も「保育・間伐」から「皆伐・循環」施策に大きく舵を切り始めました。山主が安心して皆伐育林ができるよう、国でも助成金等を含め支援体制を整え始めました。村当局も前向きに検討していただいています。森林組合としては、樹種転換を含めた循環型林業の第一歩として今後に希望の持てる明るい取組みと捉えています。山が皆の憩いの場として甦り、資産資源として保有する喜びがくる日を心待ちにしましょう。今回の「森林組合だより」は皆伐施策の実際についてのご連絡が中心となっていますので、御熟読ください。

平成27年度の組織体制について

今年度は、この体制で役職員一丸となり、組合員の皆様のため、地域のために森林整備をはじめとする各種事業活動に一生懸命に取り組んでいます。皆様には、なお一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

役員より、ひと言
思いを述べていただきました。

荒川時男 (理事・副組合長)
組合員のひとりとして、役員として、現場の作業員として、組合員の皆様のため、豊根の美林育成のため、汗を流しています。

石田吉孝 (理事)
年々増加する村の森林資源を活かして、森林整備の推進・公共構造物や木質バイオマス等エネルギーへの利用促進を図り、就労の場を確保する必要があります。

石田博三 (理事)
戦後に造成<拡大造林>された人工林が本格的な利用期に入るので、今後どのように取り組むか、将来に向けた舵取りが重要な時です。

亀山正彦 (理事)
先の方々が築いてきた事業や、森林資源の活用など、より関心が持てる林業を目指して、微力ながら取り組んでまいります。

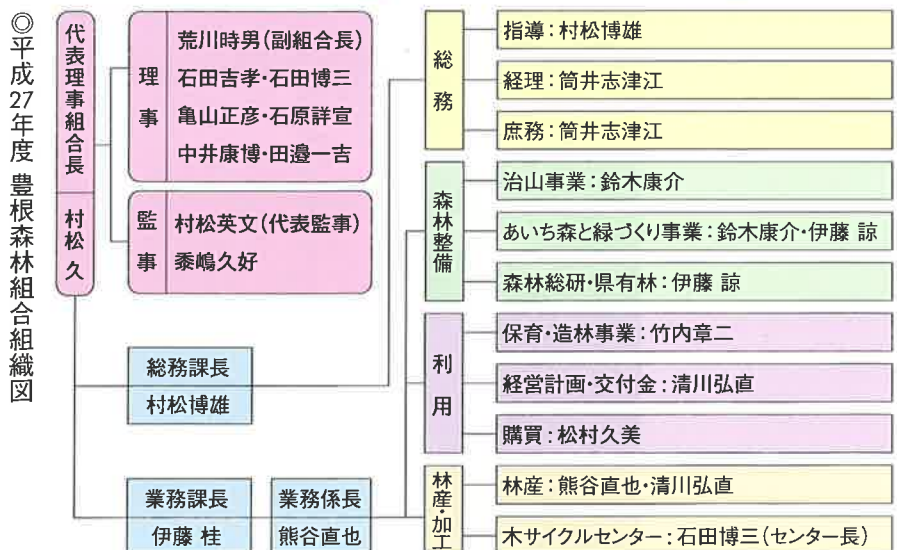
石原詳宣 (理事)
林業不振の上、山の放置、荒廃が目立ってきました。国土保全の面からも、県自治体の重要な課題として、力強い林業振興の施策を望みます。

中井康博 (理事)
組合員皆様の視点に立ち森林整備等を最優先課題にして、利益・地位の向上に繋がる取り組み、さらには国土保全も考え総合的なより良い運営を目指します。

田邊一吉 (理事)
林業を取り巻く情勢は依然として厳しくなかなか先が見えてこない状況です。林業の活性化に向け取り組んでまいります。

村松英文 (代表監事)
近年、林業不振が続かなかで、また先行き不透明な今後に向けて、森林組合の健全経営のために、職務に努力いたします。

黍嶋久好 (監事)
法令遵守のもと、「理事の職務の執行を監査する」ことを職務とし、豊根村の林業と組合の持続的な発展に微力ながら尽力いたします所存です。



出資証券の再発行について

組合の名称変更を機に出資証券を再発行しました(再発行した新出資証券は組合事務所にて保管)。豊根村森林組合および富山村森林組合において発行した出資証券は、新出資証券の発行をもって無効とさせていただきます。

森林を若返らせ、循環する森を取り戻す。

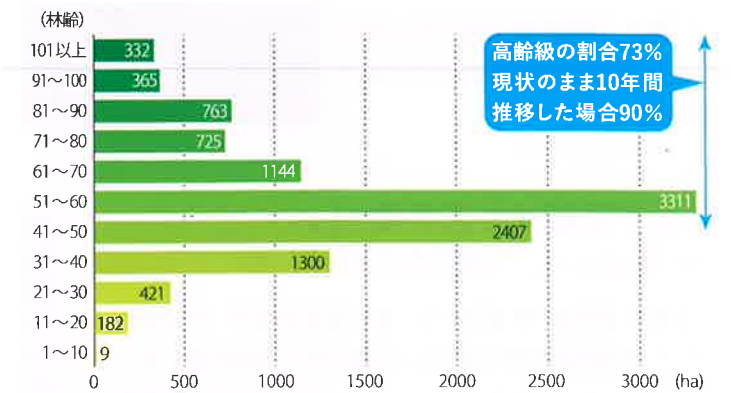
森林の少子高齢化に歯止めを

日本の人工林は、高度経済成長期に植えられた40～60年生の森林が極端に多く、それ以前からある高齢林とその後に植えられた若齢林は、ごくわずかです。活用すべき時期に入った山林は、かつてのように皆伐・再造林されることが、ほとんどありません。人工林の林齢構成は、日本の人口ピラミッドによく似た極めてアンバランスな状態が続いています。

森林の「少子高齢化」ともいえるこの問題、具体的には主に次のような点が危惧されています。(1)需要側の多様なニーズに合った木材を生産することが困難となる。(2)植栽がなくなれば育林技術・保育技術の継承が困難となる。(3)高齢級の森林では若齢林に比べて二酸化炭素吸収量が衰える。(4)齢級が偏った森林では気象害や病害虫のリスクが高まるケースがある。そこで近年では、主伐・再造林を推進し、平均林齢を若返らせる取り組みを支援する施策が増えつつあります。

森林面積が総面積の約93%(うち人工林約76%)を占める豊根村の

森林も、いま大きな転換点にあります。当組合でも皆様の積極的な参画とご支援をいただきながら、持続可能な「循環する森づくり」に取り組んでいきたいと考えています。



豊根村の杉・松人工林の林齢構成(森林簿より平成27年4月現在)
高齢級(46年生以上)の割合は全体の約73%だが、10年後には90%に達するとみられる。

皆伐・更新一貫施策でコスト削減

現在、下黒川字若栃入地内の村有林約1haにおいて、県と協力して「皆伐・更新一貫施策」を実施しています。この事業は、高性能林業機械を用いた低コスト作業システムによる搬出事業と、コンテナ苗を使用した造林事業を組み合わせ一貫作業をすることによりコスト改善効果を調査し、普及啓発に繋げようという試みです。

これまで高齢級の皆伐が先延ばしにされてきた大きな原因は、材価の低迷と植栽・保育に要するコスト高です。機械での地拵えと苗木運搬による省力化、取扱いやすいコンテナ苗の利用による植栽時間の短縮など、従来型作業に比べてどの程度の作業効率の向上がみられるのか、調査結果については本紙でも次号で報告する予定です。



杉林の一部を皆伐してコナラの林に

いまでは国民病ともいわれる花粉症への対策として、林野庁では、杉人工林等を花粉の少ない森林へ転換する取り組みを推進しています。今年度より花粉症対策品種(少花粉杉やクスギ・コナラなど)のコンテナ苗を使用することを要件として、杉・松林の伐採から植栽まで一体的に支援する交付金事業が新設されました。

当組合でも、この交付金事業を活用して、今年11月中に下黒川地内の私有林約0.3haの杉林を皆伐し、コナラを植栽する予定です。コナラやクスギなどの落葉広葉樹は15～20年ほどでシタケのほだ木として利用可能となるため、シタケを栽培している山主さんにとって杉松林から広葉樹林へ転換する絶好の機会ではないでしょうか。



手入れ困難な奥地の水源林を造成

奥地水源地域の民有林保安林のうち、無立木地・散生地・粗悪林相地などを対象に水源を涵養するための森林を造成し整備する事業です。分取造林契約で事業を行い、森林整備センターが植栽から保育・主伐までの費用の負担と技術指導等を行います。主伐後の収益は土地所有者・造林者・森林整備センターの三者、または二者(所有者と造林者が同一者)で分取します。

◎事業の対象となる森林⇒●保安林指定されている森林、または保安林に指定される予定の森林●無立木地・散生地・粗悪林相地など人

工植栽の方法によって造林を行う必要がある土地 ●1団地の見込み面積が5ha以上のもの
◎**施策方法**⇒●広葉樹などの現地植生を活かした長伐期の針広混交林を造成●将来の主伐は小面積を分散して伐採を実施●保育方法はコスト削減につながる効率的、効果的な施策により実施

◎事業に関するお問い合わせは、当組合(0536-85-1014)または森林整備センター中部整備局(052-582-4721)まで

